

あと施工アンカーの耐久性の評価方法の確立と設計の高度化研究委員会
第1回幹事会 議事録

日時：平成26年4月25日 9:00～12:00

場所：建築研究所

出席：国枝（委員長）、中野（副委員長）、濱崎、渡辺、高橋、上田、石原（オブザーバー）

（敬称略、順不同）

資料：・第1回幹事会議事次第

・研究委員会・研究課題申込書（平成26年度）

・JCI研究委員会 平成26年度新規専門委員会運営説明会資料

議事：

1. 自己紹介

各幹事より自己紹介があった。

2. 申請の経緯

国枝委員長より、申請の経緯について説明があった。

- ・ 笹子の事故を受けて、あと施工アンカーの耐久性の評価が急務となっている。
- ・ 土木学会において指針は作成されたが、現状では耐久性に関する知見が少ない。
- ・ JCIにおいては、ファスニング技術研究委員会以降、当該技術に関する取りまとめがない。
- ・ 本課題に対しては、建築と土木が協同して取り組む必要がある。

3. 活動の内容

国枝委員長より、活動内容について説明があった。議論の内容は以下の通りである。

- ・ 本委員会の活動内容は、次の4点である。1)JCI ファスニング技術研究委員会以降(最近20年)の技術発展の情報収集と公開、2)海外の試験方法や当該技術の調査および、それらを踏まえた共通試験の実施、3)適用の範囲、破壊モードや耐久性の観点での安全係数の検討、設計へのフィードバック、4)最新の数値解析技術による耐久性評価の試み、方向性の提示。
- ・ 本委員会では、指針を作ることは目的としていない。最終的には設計法の議論をしたいが、主に研究的な側面を強調したい。
- ・ あと施工アンカーは様々なところで使用されており、設計方法もさまざまである。それぞれ設計思想はどのようなものなのかをまとめることも重要である。
- ・ 接着系、金属系の使われ方の違いについて明確になっているのか。土木では管理者ごとに考え方が異なるので、必ずしも明確になっていないと思われる。
- ・ 適用範囲や現象がよくわかっていない。どこまでわかっていて、どこまでわかっていないのかを明確にしたい。また、建築と土木の違い(荷重の違いなど)を明確にしたい。
- ・ JCI にあと施工アンカーの耐アルカリ性に関する委託委員会が、また、建築研究振興協会にも同種の委員会が立ち上がる予定である。それらの委員会との連携も視野に入れている。耐薬品性については、土木学会の委員会の成果を取り入れる予定である。

4. 委員候補

委員候補者について議論した。

- ・ JCIの規定により、委員の人数は幹事を含めて20名程度とする。研究機関、学協会、発注者、施工者、メーカー、大学から幅広く委員を集めることとし、また、建築、土木、材料の割合が同程度となるようにして委員候補案を決めた。
- ・ 幹事から各委員候補者へ連絡し、内諾を得た段階で国枝委員長に連絡することとした。その際、

氏名、所属、住所、電話、fax、e-mail等の情報も併せて報告する。

5. 研究委員会からの事務連絡

国枝委員長より、説明があった。

- ・ 本委員会は、専門委員会 A である。期間は 2 年であり、成果報告書の出版とシンポジウムの実施が原則である。
- ・ 委員会 HP は、上田委員が担当することとした。

6. 今後の予定

- ・ 連休明けまでに、委員候補者の内諾を得る。5/28 までに、JCI に委員名簿と活動予定を出す必要がある。
- ・ 第 1 回委員会は、6 月初旬に開催を予定。e-mail にて日程調整を行う。
- ・ 委員会は年 3 回開催する予定である。WG を設けるかどうかについては、委員を選定した後に議論することとした。

7. その他

高橋委員より、9/16～18 にエルゲハウゼン氏が来日される予定であるとの情報提供があった。欧州のみならず米国の関係者を帯同する可能性があることから、海外の情報を得られる良い機会となるのではとの意見があった。

以上